

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100691		
法人名	株式会社 ever優		
事業所名	ever優 グループホーム沼津		
所在地	静岡県沼津市西添町10-12		
自己評価作成日	平成 28年10月6日	評価結果市町村受理日	平成 28年 12月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	平成 28年 10月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念のもと、利用者様の生活が有意義なものとなるように、利用者様の希望することや、遠方やお忙しいご家族に代わって、受診、外食、買い物など行っています。そして、地域に受け入れ愛される場所となるように、自治会長さんにも協力して頂き、催し物へ参加させて頂いたり、勉強会へ来ていただけるように声掛けを行い、地域の方々へ少しでもお役に立てる事への試みをしています。また、ケアが困難な方であっても、積極的に受け入れ、ケアと医療との連携を図りながら落ち着いた生活を取り戻して頂いております。そのため、社内勉強会やカンファレンスを適宜行い、職員のスキルアップを行っています。看取り介護では、ご本人やご家族が安心できる終末期ケアができるように他職種間の連携やご家族へのフォロー、担当者会議等も行い悔いのない看取りが出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの向かいには公園があり、散歩等環境にも優れている。落ち着いた雰囲気の中、「いつもの」生活を支援できるよう、日常会話の中から利用者の意欲を引出し、実践している様子がうかがえた。地域の社会資源として、地域住民からの要請があった研修等に関係機関と連携を取りながら実施し、地域密着型の施設としての役割ができています。利用者・職員共に笑顔や会話が多くの、一人ひとりの生活や個性を重視し認めているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務中にいつも理念が意識できるように、各事業所へ理念を掲示している。機会がある毎に理念の確認を朝礼等で伝えていいる。地域の方々へ受け入れて頂けるよう、行事の参加や勉強会へのお誘いを、回覧板等をまわしよびかけている。	理念は事務所内に掲示され、朝礼等で確認周知を図っている。管理者は更に理解を深めるべき、研修等を利用し職員全体に理念の大切さやケアに繋がるよう取り組みをおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへ空気が田がけていき参加している。また、ホームへの地域の子供会のお祭りなどもホームに来て踊って下さっている。散歩や地域のお祭り、敬老会などで地域の方と触れ合いを持つことで、認知症の方を理解し受け入れて頂いている。地域の方々はウエスや不要になった家事道具、畑で採れた作物などを、持って来て下さっている。	地域行事への参加や施設行事への誘いを積極的にに行い、お互いに交流できる機会の提供をされている。また地域住民によるボランティア活動ではホーム内で詩吟やお話の会等のレク活動が定期的に行なわれ、利用者と住民との関わりを大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おむつ講習会も地域の薬局と協力し合い、回覧板をまわし、参加を呼び掛けて数名の方が参加された。1年に1回は、地域との勉強会をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長さんや、民生員の方に参加して頂き、地域との連携をおこなっている。また、近くにある2つの他の事業所であるグループホームの職員にも来ていただき、地域や事業所内の情報交換をして地域で出来る事への取り組みに活かしている。	運営推進会議では看取りの取り組み報告をおこない、参加メンバーで意見交換や評価、今後のケアにつなげる話合いがおこなわれている。メンバーには利用者が含まれ、ケアされる側の率直な意見をケアに繋げる姿勢が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課施設指導係や、施設指導係の担当者と、連絡を取り合い、情報の提供をしたり、アドバイスや指導を受けている。丁寧に指導をして下さるので、相談しやすく協力関係が築けていると感じている。	事故報告書等の提出書類は市町村へ直接出向き、報告や相談する事で利用者がより良いケアサービスが受けられるよう意見を聞き、また事業所の情報を提供して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒骨折の方1人が、家族の希望により、職員が手薄になる時間帯のみ、車椅子の安全ベルトを使用している。他、見守りが十分できず難設傾向にある方が居る時のみ、一時的な施錠をしているが施錠時はドアに表示をしている。これらも拘束になる事を意識して、仕事へ取り組んでい	家族の希望により一人、車椅子上にて安全帯を使用している利用者がいる。しかし使用時間や利用者の様子等が記録できるような工夫がされ、ケアの改善に繋げられるよう、取り組みをおこなっている。入ロアの施錠はされていないが、無断で外出しない様、センサーやベル等ケアにおいての工夫があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関する研修には行けていないが、虐待に関する社内勉強会やカンファレンスでも、話し合いを行っている。スピーチロックに起こりやすいため、注意し合い気をつけている。外部研修については、今後受けるようにしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、研修を受けた職員が、社内勉強会で発表し伝えている。職員は利用している利用者様を把握している。自立支援事業については、社内勉強会やカンファレンスで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、見学をしていただき実際の生活の様子を見て頂きながら、説明を細かくしている。希望に沿えるように、不安や疑問が残らないよう十分話し合い契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関しては、意見。要望を活かして頂けるよう、毎月のおたより等送付時や訪問時に伝えている。伝えづらい苦情は公的窓口を紹介している。職員に伝えられた利用者、家族の要望は即対応している。	カンファレンスや面会時に家族や利用者からの意見や要望があったときには、管理者と職員で話し合い、連絡ノートで情報を共有し、広報誌や面会時に対応した結果内容を家族等に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換や提案を出しやすいように、カンファレンスの場や、感じたときに話してもらえるように、声かけ等に努めている。意見や提案は管理者間で話し合い、反省できるようにしている。	申し送りノートを利用し職員の提案や意見を組み上げる体制がとられている。日常会話の中でも、相談を含め意見が出やすい雰囲気作りにより管理者は努めコミュニケーションが図れるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、終礼や必要時の会議を開き管理者と情報交換をすることで、勤務状況が把握できて、やりがいももてる環境を整え、給料の見直しや個々の職員の生活に合った労働時間を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の、経験年数や実績を把握し、それぞれに合った研修を受けられる機会を確保している。働きながらも学べるように短時間の社内勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他2か所の運営推進会議への参加を行っている。それにより、良いことは取り入れたり、反省したりすることで切磋琢磨しサービスの向上に努めている。介護支援連絡協議会やグループホーム連絡協議会へも参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前の面接に、介護支援専門員を含めた職員2人が行き、自己紹介から行き、その方へ寄り添えるように、細かく情報を得て、何に困っているのかを聞き安心できる声かけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護、また入院時の家族が大変であった思いを聞き、共感した思いを伝えている。施設へ入れて良いのかと揺れ動く思いや不安を聞き、家族の希望や思いをケアプランへ反映させて、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの適用性や金銭面での話し合いを行い、適応できない場合は他のサービス事業を紹介して、他のサービス事業所との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中の家事は、お互い様の気持ちを引き出し、「ありがとう」が伝えあえるように、協力合っている。信頼関係を作り、笑顔が絶えない関係を築くことの実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を面会時や「たより」で伝えながら、季節ごとの衣類の交換や、受診時の付き添い等でも家族の協力が必要なことを伝えている。家族の面会が一番の楽しみであることも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていたなじみの食堂やお店、墓参りなど、希望をきいて計画をたて、実行できるようにしている。看取りを行った方も、亡くなる前の月まで毎月の同級会へ参加できていた。	本人・家族・知人より情報収集し、馴染みの場所への参加機会を提供されている。毎月1回プチ同窓会参加支援を行い、外出も積極的に実施している。墓参りなど、利用者の習慣も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歩行ができる利用者は、車椅子を押してもらったり、仲の良い人が固まらないように職員が橋渡しをして、支え合えるコミュニケーションの場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移る時は、介護サマリーで詳しく情報を提供している。その後の様子をご家族へ聞いたり、気軽に相談ができるように対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	楽しみの一つである食事は、リクエストしてもらい献立を作っている。おしゃれ面では、エステをうけたり、希望する髪型へカットやカラーをしている。テレビは、好きな番組が見られるようにしている。買い物も欲しいものがあれば、一緒に買いに行くなどしている。	ケアプラン更新時は本人や家族に聞き取りを行い、本人参加による担当者会議を開催している。思いをくみ取り、プランに反映し、好みや希望等、細かな対応を行なっている。日々の行動や言葉からも思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やご家族の面会時に、情報をえているが、現在は十分とは言えない。以前行っていたセンター方式を再度勉強会で行い、センター方式を活用としたケアに努めて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の、バイタルチェックで体調の確認をして、レクレーションへの参加で心身の状態を把握している。家事作業等でももっている力を把握し、できる事はやっていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開き、情報の共有でモニタリングを行い、課題の抽出、ニーズの拾い出しを行っている。本人も入っていただき、直接話して頂く事も多くある。また、家族と面会して家族の意向をも取り入れ計画を立てている。問題があった時は、変更もしている。	利用者ごとに希望を踏まえニーズの抽出がされている。本人の言葉での記載もあり、担当者会議に本人中心のケアをしていく姿勢がみられる。何をしたいのか、要望を聞き取り、具体的な介護計画がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った内容については、青のボールペンで記入するようにして、介護計画とケアの連動性を重視している。黒の記録が増える事は、介護計画が合っていないことになり、カンファレンスを行い情報交換をしてケアの見直しを心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの連携で、グループホームだけではできないレクレーションをおこなったり、受診や買い物、墓参り、外食など家族に代わって行っているサービスも多くある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問や介護のお手伝い、ウエスの提供などのボランティアを受け入れ、交流を持つことで新たな力が発揮できたり、楽しみを持つことができる。また、安全な暮らしの支援につながる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医があるが、入居時には長年お世話になってきたかかりつけ医との関係も重視し、本人や家族に選択していただいている。かかりつけ医の変更時は、必ず診療情報提供表で引き継ぎをしている。	往診医や協力医の他、利用者のかかりつけ医への受診は家族が付き添えない場合は職員が支援を行っている。状況により病院を選ぶ事ができ、主治医からの紹介状にて安心して受診できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日行われる朝礼時や、必要時にバイタルチェックの報告をしたり、変化があった時には指示を仰いで早目の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを渡し情報の提供に努めている。その後も経過をソーシャルワーカーと連携して情報を得るようにしている。退院時には、カンファレンスを開いて頂き看護師や理学療法士等の専門職からの情報も得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りの指針を構築している。家族、主治医、職員との話し合いにより看取り計画を行っている。必要時は、訪問看護ステーションとの契約も行い、チームで終末期を支えている。	往診と協力体制をとり、本人や家族の意見を反映した看取りケアをおこなっている。運営推進会議においても看取りの事例を報告し、共に話し合いの場を設け、ホームの看取りに対する方針や、生活支援に関する情報提供を家族に行い、小さな変化も家族に報告する独自の書式にて対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在までに3回の救急救命講習を受けている。誤嚥時には、掃除機で吸引対応が出来るように、各事務所に吸引ノズルを設置し、緊急時に対応できるようにしてある。急変時も看護師と連絡体制を整え、動けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月、11月は定期の防災訓練を実施している。消防署の方も参加して頂き、その都度指導を受け訓練をしている。夜勤の方の訓練があまりできていない為課題である。	災害時の対応方法はマニュアルが明確にされており、非常時の持ち出し袋や毛布等備品が整えられている。定期的な防災訓練では消防署立ち合いのもと、指導を受け訓練を実施している。緊急連絡網も備えられている。	目の前が避難所である、地域の特徴をとらえ、地域における役割や協力体制が構築されると良いでしょう。ホーム内だけの訓練で終わらず、住民参加の訓練を行う事により、理解や安全確保に繋がるかと期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重する意識はあっても一部の、職員によっては、上から目線的な言葉を使ってしまったり、他の利用者の前で注意をするような発言もある。勉強会等で繰り返し伝えていても、徹底できない部分が難しい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が声をかけてきたり、呼び止めるような時、普段の会話の中から、思いや希望をきいたり、担当者会議に参加していただき、そこで思いを話して頂いている。選択しなくてはならない内容については、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、食事時間の提供や入浴などできればよいが、決まった業務がある中で難しい面もある。しかし個別ケアを尊重したケアも心がけ努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は、好きな服が来られるように、準備できる方は、していただいたり、髪型も希望に添ってカットしたり、カラーしたりヘア飾りなども付けて頂き、エステへ行かれる方もいる。好む服を持って来ていただくように、家族へ伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は、職員がローテーションで作成している。作成時にはリクエストを聞き、取り入れ食事をする時に、そのことを話題にしたりしている。献立表は見やすくカラフルにして楽しめるように掲示している。材料の皮むきや刻み、盛り付けも参加できるように支援している。	献立は職員が持ち回りで作成している。利用者のリクエストや郷土料理も含まれ、味はもちろんの事ながら、故郷の話でも食事を楽しむ事ができる。利用者が調理に参加され、力を発揮されており、家庭的な雰囲気を感じる事ができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは、管理栄養士から受けた指導に沿って、行っている。肉、魚、野菜、海藻等を意識して献立を作成している。好き嫌いや治療上食べる事ができない物もある為、献立を変更して個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行っている。仕上げの歯磨きを職員が補助している。就寝前には、入れ歯洗浄剤につけて、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて、こまめなトイレ誘導をしている事で、パットやリハビリパンツの使用枚数を減らしている。入居時にリハビリパンツを使用していた方も、入居後綿の下着に変更できている方も数人いる。おむつ講習会を開いておむつを減らす実技を身に付けている。	布パンツへの取り組みを行ない、現在オムツ使用者はゼロです。個人の排泄アセスメントから始まり、パットの種類や当て方の工夫、トイレ誘導をおこない、自立支援をされている。朝礼時に夜間の排泄状況を報告し、共有化されケアに活かされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝排便チェックをしている。食事は、野菜や根菜、ヨーグルトを多く取り入れている。また、水分が摂れるように気をつけている。レクレーションで体をできるだけ、動かすよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていますが、その日に入れなければ臨機応変に対応している。拒否される方も、言葉かけなど工夫をして勤めている。入浴剤を入れて色や香りを楽しんで頂いている。夜間入りしたい方もあるが、対応は難しい。	利用者の状態に臨機応変に対応しています。拒否が見られた時も、時間・職員を変えるなど工夫し、タイミングを図る努力をされています。入浴が楽しめるよう、入浴剤を使用し、清潔だけでなくリラックスできる配慮がみられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めないで、眠くなった時に寝て頂くようにしている。その日のスケジュールで、疲れている時は、早目に入床して頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、申し送りをして観察をするようにしている。薬の効きすぎているような時は、看護師や主治医に報告して対応している。全ての薬の副作用までの理解は難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や、できる事を活かし、詩吟クラブへの参加や家事作業など、その方にできる事を積極的にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望は出来る限り、取り入れている。行きつけの食堂や、墓参り。外出レクレーションの時は、地域のボランティアや、家族へも協力して頂いている。季節の良い時は、散歩に出かけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたいという方は、家族に承諾を得て持っていただいている。また、額が多い方は、ユニットで管理していつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡は、頻繁過ぎて家族の負担にならない程度で、希望するときにかけられるようにしている。手紙のやり取りもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保ち、散歩に行った時に摘んだ花や、職員が持ってくる花を飾ったりしている。日めくりカレンダーや、季節の壁画、写真を飾り、見て楽しめる癒しの空間になっている。	利用者自ら制作した物や盆栽を展示したり、季節感あふれる写真等が飾られ、室内にいても外の季節を楽しめる工夫が見られた。清潔感あふれる空間に生活を感じる事のできる調理の匂いがあふれ、心地良さだけでなく、安心できる時間を過ごすようされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファを置きくつろいで談話やテレビを見る事が出来るようになっている。居室で読書や新聞を楽しんでおられる方もいる。コーヒーなども飲みながら、くつろぐことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている、家具や写真、飾り物、寝具などを持ってきていただいている。家族の位牌を持って来られている方もいる。アルバムや写真なども持ってきて、懐かしく思い出していただきながら居心地良く過ごせるように支援している。	ドア入口には見やすいような名前プレートが掛けてある。馴染みの家具や本人・家族の要望を取り入れた居室作りがされている。、その方の身体状況や好みに合わせた配置がなされ利用者の性格等が伝わってくるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮しながら、洗濯干しが出来るように、低い位置で干せるようにしている。掃除も昔ながらの箒も用意し、いつでも使えるところに置いてあることで、掃除もできている。又、一人でトイレに行けるよう廊下、トイレ等に手すりセンサー照明を設置している。		